

令和元年度学校評価(自己評価)シート (各学年・部・委員会の取り組み、方策)

A:3.3以上 B:2.5以上3.3未満 C:2.5未満 A:3.3以上 B:2.5以上3.3未満 C:2.5未満 A:3.3以上 B:2.5以上3.3未満 C:2.5未満

学年・部・委員会	NO	今年度の重点取組事項	教員による自己評価		学校評価アンケート項目		評価(保護者)		学校評価アンケート項目		評価(生徒)		今年度の取組状況と次年度の改善方策	学校関係者評価
			平均	評価	保護者	平均	評価	生徒	平均	評価				
1学年	1	遅刻・欠席等をできる限りしないよう、基本的な生活習慣の確立に取り組ませ、質の高い文武両道に基づいた高校生活を築かせる。	3.0	B	お子さんは、規則正しい生活習慣が身につけている。	2.8	B	毎日、規則正しい生活を送っている。	2.9	B	生徒は意欲的に高校生活に取り組んでおり、遅刻・欠席、保健室利用、けがなども少なく、基本的な生活習慣は良好であった。次年度に向けて、学校の中核を担うという自覚を持たせ、さらに意欲的に取り組ませたい。			
	2	適切な進路選択としっかりとした学力を身に着けさせる。	2.8	B	お子さんは、高校卒業後の進路をしっかりと考えていると思う。	3.0	B	卒業後の進路について主体的に考え、類型選択をすることができた。	3.1	B	大学入学共通テストが導入される中、入試の動向に細心の注意を払いながら、文理選択を行った。外部模試の学年全体としての成績は例年同様である。今後も課題に取り組む、学力の向上を図りたい。			
2学年	3	中核的役割を果たす学年としての自覚を持たせて、自主的・能動的・主体的また協調を大切に学校行事や日常の教育活動に取り組む姿勢を育てる。また、LHR等を利用し、学級行事・学年行事に積極的に参加させることで、大きな達成感を味わうことができるよう支援する。	3.0	B	保護者が参加可能な学校行事には積極的に参加したいと思う。	3.0	B	(2年のみ)修学旅行に向けての話し合いや準備に積極的に取り組んでいる。	3.2	B	様々な活動に積極的かつ自主的に参画し、生徒間での協力ができる生徒は増加してきていると考える。次年度は高校生活の集大成となるよう、学年全体としてより一層協調を図り、実りある高校生活に結び付けたい。			
	4	適切な進路選択としっかりとした学力を身につける	2.9	B	お子さんは目標を持ち、課題を意識しながら日々生活していると思う。	2.9	B	自分の目標を持ち、課題を意識しながら日々生活している。	2.9	B	入試制度改革の変更が相次ぎ、不透明な状況の中でも適宜情報発信は行った。生徒たちは冷静に情報の獲得に努め、かつ学力向上に頑張ってきた。次年度はそれぞれの具体的な進路実現に向け、個人面談の充実等と目的達成のための努力を重ねる環境を整えたい。			
3学年	5	最高学年の生徒として学校行事をしっかりと担うと共に、LHR等を利用した学級行事、学年行事を生徒の自治的活動として自主的・積極的に取り組むよう指導・支援する。	2.9	B	学級活動や部活動等で、お子さんは積極的に活動していると思う。	3.3	A	学校行事等でクラスの活動に積極的に参加している。	3.2	B	最高学年の学校行事・学級行事において、学級役員・生徒会執行部等が中心となって自ら企画、計画し、また今まで以上にリーダーシップを十分発揮して取り組んだ。そして生徒自身もその達成感を感じている。			
	6	生徒が、自分の目標や課題を明確にし、それにむけて覚悟を持って粘り強く取り組み、実現できるように指導する。	2.8	B	進路指導は、生徒一人一人の目標達成に役立つよう行われている。	3.0	B	授業中に積極的に発言したり分からないことは質問するなど積極的に学習に取り組んでいる。	2.4	C	教師との面談等で双方向のコミュニケーションが図れる場面や時間を出来るだけ多く設定し、ほとんどの生徒の目標が明確になり、懸命に努力する生徒が増えてきた。またその目標にこだわり、最後まで頑張りぬくように強く指導してきたことで、受験が近づいても学校にきちんと登校し、仲間と励まし合ってお互いに支えあえることが出来る温かい雰囲気づくりもできた。			
総務	7	昨年度改装された南館に続き、今年度は北館生徒用トイレの改装が予定されている。これらトイレの衛生管理を徹底する。	3.2	B	本校は、清掃が行き届いており環境が整っている。	3.0	B	美化意識を持って清掃を丁寧に行っている。	3.0	B	乾式トイレの清掃のしかたを研究し、清潔な環境を維持したい。			
	8	図書室は貸出しだけでなく、授業での利用や放課後・長期休業中のなど、教科学習の場所の提供という形で大きく貢献している。昨年度は閲覧用机・椅子を補充し、環境を一定程度整備できた。今年度は蔵書の充実を推進したい。	3.1	B				冷暖房の設備もあり、冬も夏も快適に図書室を利用することができた。	2.5	B	生徒の生活の中に、読書の習慣をつけさせたい。秋の読書週間のごりに実施している「ビブリオバトル」は本校の行事として定着してきている。さらに充実発展させていきたい。			
教務	9	新学習指導要領に対応した教育課程の検討	2.9	B	本校は、特色ある教育活動を行っていると思う。	3.1	B	自ら率先して家庭学習に取り組んでいる。	2.8	B	2022年度入学生用の教育課程原案を作成することができたが、県の指針がまだ出ていないため、原案どおりに実施可能かどうか不明である。県の指針を受けて、再度検討・修正する必要がある。			
	10	教師集団としての教科指導力向上	2.5	B	本校の教員は授業改善に努め、お子さんにわかりやすい授業を行っていると思う。	3.0	B	グループ学習等において、お互いに教え合い、学び合う活動に積極的に参加できた。	3.0	B	年間2回の授業公開週間の実施や、新授業プロジェクトによる研究授業の実施などにより、教員の授業に対する意識の向上がみられた。来年度も同様の取り組みを行いたい。			
生徒指導	11	登下校マナーの向上と事故件数の削減	2.6	B	お子さんは、交通ルール、マナーを守り安全に登校している。	3.3	A	交通ルール、マナーを守り安全に登校している。	3.4	A	結果として、事故や苦情の件数が大きく減少することはなかったが、現在の指導を基本として継続させていきたい。			
	12	生徒会活動の充実 (専門委員会ごとに新たな取り組みを考え実践する。)	2.8	B	文化祭や体育大会等の学校行事は活発に行われていると思う。	3.2	B	生徒会活動に、積極的に取り組んで(協力している)。	2.3	C	今年度は風紀委員会において、様々なマナーアップを呼びかけるポスターを作成した。次年度も生徒の規範意識の高まる取り組みを実践したい。			
進路指導	13	生徒の主体的な進路実現が達成できるよう、計画的な進路HR・進路行事を実施し、その内容の充実を努める。また生徒、保護者、教員が新しい入試情報を共有できるよう、「キャリアガイダンス通信」の内容の充実を図る。	3.0	B	進路指導部が発行する進路通信に関心を持って読んでいる。	2.7	B	進路指導部が発行する進路通信に関心を持って読んでいる。	2.4	C	今年度計画された行事は、無事に終了することができた。新しい入試制度の変更で混乱も生じたが、その都度、生徒や保護者に情報を提供し、理解を求めることができた。「キャリアガイダンス通信」の内容をさらに充実させ、生徒、保護者への情報提供を行い、さらに主体的な進路選択ができるように努めた。			
	14	入試改革に向けて「JAPAN e-Portfolio」をスムーズに利用できるよう生徒への指導を行う。具体的には、ベネッセの「ナビジョン ポートフォリオ」に、探究活動や課外活動、資格・検定の実績など「学びのデータ」を蓄積して、生徒自身に高校生活のPDCAサイクルを促し、入試の出願等にも活用できるようにする。	2.9	B				進路に関する情報が十分提供され、きめ細かく指導してもらえる。	2.9	B	学期末毎に、ふりかえり用紙に記入させ、スマートフォン等を利用して「ナビジョンポートフォリオ」に入力させることで、学びのデータを蓄積することができた。学習活動を含む日々の学校生活の中で、生徒が主体的にPDCAサイクルを回し、その成長が入試にも活用できるように促したい。			
情報	15	生徒昇降口にある大型モニターを有効活用できるよう検討を進める。また、無線APを導入し、活用を検討する。	2.0	C							無線APの導入については、まず1台購入し、活用を始めることができたので、今後さらに計画を進めていく予定である。生徒昇降口の大型モニターについては、年度当初に検討を進め、業者の見積もりを取るところまで話が進んだが、最終的に予算の目的が立たず、それ以上計画を進めることができなかった。			
	16	生徒系ネットワークにL3スイッチを設置し、セキュリティを向上させるとともに、教室内ネットワークの再構築を検討する。	2.2	C				授業でグループ学習等の対話やICT等情報機器を使う時間が増えてきていると思う。	2.5	B	教室内ネットワークについては、県の事業及び同窓会・PTAの援助等により、2、3年以内に各HR教室で無線LANが使用できるようになるほか、特別教室、準備室、会議室等においても生徒系の無線LANが使用可能となる見込みである。また、第2情報教室の改装も計画中であり、今年度はこうした学校全体での大幅なネットワーク再構築の下準備を進める1年となった。生徒系ネットワークのセキュリティについては、県のネットワーク変更により軌道修正を余儀なくされ、1台のL2(L2)スイッチだけではカバーしきれず、予算的にも困難な状況となった。			
保健	17	保健委員会活動の活性化 ・年間を通して、使い捨てコンタクトレンズの空ケース回収運動(エコプロジェクト) ・感染症予防の取り組みのひとつとして、手洗い場のハンドソープの補充 ・文化祭をはじめ、年間を通じた健康啓発活動の実施(ポスター作成など) ・月一回の保健便りの発行	3.1	B							重点取組事項に関しては、積極的に達成できたと思います。今後は感染症予防に対する取り組みをより明確にし健康で安全な学校を目指していきたいと思います。			
研究推進	18	3期申請 ・3年目に実施された中間評価で指摘された内容に対して改善をはかった内容にする。 ・職員会議で進捗状況を適宜報告し学校全体の取り組みであることを認識する。	2.8	B							・3期の研究開発課題名を「地域社会と共創した科学技術人材育成プランの再構築とその評価方法の研究」として文部科学省へ提出した。 ・1学期から夏休みにかけて地域企業、研究所を訪問し3期申請に向けて連携を強化した。 ・適宜職員会議などで進捗状況を報告したが、正式な文書としての周知は1月職員会議であった(文科省への提出が1月31日)。 ・次年度に向けて、学校全体の取組であることを再認識するために、事業の見える化が必要であり、情報発信の頻度を高めなければならない。			
	19	課題研究における外部機関との連携強化 ・各班必ず大学又は企業などと連携をとり研究内容のパフォーマンス向上を目指す。 ・特に他府県の高専学校との連携・交流を図る	2.9	B				課題研究に積極的に取り組んでいる。	2.7	B	・神戸大学医学部附属病院整形外科との連携を行い20人以上の医師の前で成果発表を行った(この班は全国大会へ出場した)。 ・京都府立洛北高等学校、奈良女子大学附属中等教育学校と連携し課題研究発表や実習へ参加した。 ・課題研究班の学外連携に関してはまだまだ弱いので、連携することを必須とすることを徹底する。			
	20	海外研修時のコミュニケーション能力の向上 ・7回にわたる事前研修を通じ、英語を利用したコミュニケーション能力の向上を図る。	2.9	B							・ALTを起用した事前研修(実験実習、レポートなど)を重ねることが、現地での英語コミュニケーションの向上に役立った。 ・次年度は共同研究をシンガポール現地連携校と実施するため、インターネット回線を利用したPCIによるオンライン会議を行い更に現地とのコミュニケーションを行う。			
心の教育推進	21	インターネットによる人権侵害も含めたいじめ問題について、外部講師による講演会を開き、生徒の理解を深める。	3.0	B	お子さんは、お互いの人格を尊重する友人との付き合いができています。	3.4	A	お互いの人格を尊重する友人との付き合いができています。	3.5	A	6月に全校生徒を対象に講演会を実施した。どの学年も、約90%の生徒がためになる講演会であったと回答したため、生徒にとっていじめに対する理解を深めることができた有意義な講演会であったと考えられる。			
	22	校内で人権学習の重要性をさらに共通理解するため、心の教育LHRの実施回数を昨年度と同様とする。	3.0	B				LHR等で、定期的に人権に関する考察を深めることができた。	2.8	B	今年度も、昨年度と同じ回数心の教育LHRを実施することができた。来年度も、人権学習の重要性を校内で共通理解していき、各学年に早くから企画を促していきたい。			